

第19回京都市都市緑化審議会 摘録

1 開催日時

令和7年3月14日（金）午後1時30分～3時30分

2 開催場所

京都市役所本庁舎4階 正庁の間

3 出席者（敬称略）

委員11名出席

会 長	深町	加津枝
副会長	平山	貴美子
委 員	井原	縁
委 員	黒木	要州
委 員	谷	萌子
委 員	内藤	光里
委 員	町田	誠
委 員	森山	敦子
委 員	矢部	典子
委 員	山口	敬太
委 員	山田	豊久

事務局

建設局みどり政策推進室	室長	永田	盛士
	事業促進担当部長	朝山	勝人
	みどり企画課長	山本	真史
	緑化推進課長	豊田	幸宏

4 次 第

- (1) 開会
- (2) 京都市挨拶
- (3) 議題
 - ・次期「緑の基本計画」について
 - ・保存樹の追加指定について
- (4) 閉会

5 会議録

[摘録]＜委：委員、事：事務局＞

(1) 議題

〔次期「緑の基本計画」について〕

(質疑応答)

委：

緑の基本計画検討部会を計4回開催し、その間、審議会でも意見をいただきながら検討を進めてきた。市民の方々に分かりやすいよう最大限配慮し、時代に即した計画を目指している。

委：

緑の基本計画検討部会での策定作業は非常に楽しい経験であり、感謝している。

レーダーチャートのスタイル（スライド26）は他に例がないと思われる。

従来の市民一人当たりの公園面積のような紋切り型の計画目標に突き進むような時代ではもうない。量でなく生活、くらし、生きものといった質の側面を表そうとする意図を理解できるようにしていただきたい。

モニタリングの頻度について、内容が毎年大きく変化するものではなく、実施には労力がかかるが、何年おきに実施するのか。今後計画を全面改定することがあっても、こうしたアプローチで、経年でモニタリングしていくようにしてほしい。

デジタルブックについて、PDF形式でホームページに掲載するだけでなく、データにフォーカスできるような工夫がされている点は珍しい。みどりの基本計画の訴求力や共感力を高めたいという意図が分かるようにすべきである。

デジタルブックの音声化も検討してほしい。概要版だけでも音声で聞けるようにすることで、インクルージョン（包括）を意識した計画であることを伝えられる。概要版の書き方も変わってくるだろう。多くの人々にメッセージを届けられるよう検討を期待する。

スライド18のみどりの展望にあるような公園での試みを通じて、オープンスペースでの活動や参加を促進していくという観点から、計画完成時、子どもたちが参加できるワークショップを開催し、みどりの基本計画をネタに楽しめると良い。ボードゲームのような形で、市民全体でみどり豊かな千年先の京都を目指す気持ちを伝えられると良い。

千年先という視点は京都ならではのものであり、他の都市にはない。人口減少社会においても、京都が千年の歴史に支えられていることを感じさせる計画にしてほしい。

事：

モニタリングについては、庁内向けと市民向けで確認事項が異なる。庁内向けには、庁内連携や進捗確認を定期的に行い、労力のかからない範囲で毎年実施したい。

みどりの現況は劇的に変化するものではないため、市民向けにはウェブアンケートを検討している。費用も考慮し、2～3年程度の間隔で実施し、より長期的なスパンで公表することも検討する。

音声化については、技術的な課題や費用を検討しながら、可能な範囲で実施したい。公表方法に関するアイデアがあれば提案してほしい。ワークショップについても、多くの人に計画を知ってもらうための理想的な手段であると考えている。まずは多くの人に知ってもらい、みどりの理解を深める場に繋げていきたい。今後、実施可能性を含めて検討を進める。

委：

デジタルブックを通じて、皆で共有し考えていくというコンセプトについて説明いただいた。京都には多くの大学があり、子供たちも多くいる。彼らがイラストや写真を提供する機会を設け、計画に参加できるようにすることができれば、より多くの人々が自分事として考えられるきっかけになり、皆で作り上げるという感覚を持つことができるのではないか。

事：

デジタルブックの案では、本市職員が撮影した画像を使用している。職員自身がみどりの良さを認識することを目的としており、皆で撮影している。本来の趣旨として、市民と共に作り、市民に撮影していただくことが重要であると考えているため、そうした手法についても検討したい。

委：

計画全体の大まかな方向性は非常に良い。体系的に整理されており、みどりはたらきや人のはたらきに関する分類も分かりやすい。先ほどの意見にもあったように、従来の目標値を掲げる計画体系から、理念や政策方針に基づいた各事業や地域ごとの課題解決を柔軟に支えるような上位計画を目指していると理解できる。達成目標をあえて掲げない点において、画期的な計画である。

スライド25からの指標については、これからの課題と考えている。理念に加え、各政策を評価するためのベンチマーク（基準）となる指標の設定が重要である。例えば、レーダーチャートを使った5段階評価での分析は分かりやすく、良い方法であるが、指標の根拠となるデータの充実を今後どのように図っていくのか、また、それをどのようにレーダーチャートに反映させるのかが課題である。

アンケートは評価手法として重要だが、それだけでは施策の成果が見えにくくなる部分が出てくる。例えば、アンケートの実施時に、単に印象を聞くのではなく参考データを示しつつ評価を行うなど、両輪で進めてはどうか。全市的な達成目標を掲げるのは難しいが、施策ごとの事業インパクトを評価していく必要は出てくる。今後、みどり政策の評価及び指標化を進めるために、指標の位置付けが気になるところである。

例えば、最近のネイチャーポジティブや生物多様性、官民によるグリーンフラプロジェクト、投資の促進、暑熱対策といった新たな政策が求められたときに、新たな評価指標を考えることも必要である。

京都市の Park-UP 事業をとっても、活動の質や多様性、地域での交流機会、参加者数、形成されたコミュニティの認知度、生活満足度との関連をどう評価するかが課題である。これらの評価が難しいことは承知しているが、データを蓄積しながら、それを元にアンケートを通じて評価していくことで、長期的にはアンケート評価が信頼性のあるものになっていくだろう。

事：

現在、京都市では14のみどりのはたらきに基づいた充実を図り、そのバランスを計画の方向性として評価することを目指している。しかしながら、委員がおっしゃるとおり、限界があるため、指標の詳細な設定については今後検討していく必要があると考えている。今後の部会内でもその観点から意見を出していきたいと思っており、引き続き必要なデータについて御意見をいただきたい。

委：

スライド22の施策の方向性について確認したい点がある。方向性③において「文化や風情を支えるみどりを形成する」という文言が使われているが、これまでの具体的な取組を見ると、現状のみどりを維持・保存することが主である。「形成する」という言葉は「作る」という印象を与える。この項目を「形成する」と表現した経緯や意図があれば教えていただきたい。

また、先ほどのレーダーチャートに関連して、市民に対する Web アンケートでカバーできる市民の意見はどの程度か。Web では、関心を持つ市民が中心になりがちのため、より広い意見を伺うための考えがあれば教えてほしい。

事：

施策の方向性③の「形成する」という表現について、最初はそれぞれの文章に合った語尾に変えようとしたが、分かりにくくなってしまったため、語尾の表現を揃えることとした。「形成する」という言葉については、「作る」というイメージを持つ方が多いことは承知しているが、守ることも含めた「形成し続ける」という意味合いで表現している。京都には千年の歴史があり、御指摘の

ように既に存在するみどりも考慮する必要があるため、表現については改めて部会で検討したい。

Web アンケートは、登録モニターを持つアンケート会社に委託することを検討している。この方法では、特定の属性や専門性に偏らない一般の方を対象にすることができる。サンプル数は、500 人程度集められる見込みである。世代別に調整した回答の回収も可能であり、従来の無作為配布の紙アンケートと比べ、より広範な意見を安定して抽出できると考えている。

委：

アンケートについて、例えば、パソコンが使えない障害者もいる。聾啞（ろうあ）の人は話すことすら困難である。視覚障害者は、点字形式でなければ対応できない場合もある。そのような人々に対して、アンケートは実施されないのか。

また、これはデジタルブックとは直接関係ない話であるが、視覚障害を持つ方の話では、木によって匂いが異なったり、木によって木陰の涼しさが違うと言ひ、私達には分からないことを感じ取っていることがある。こうした方々には、樹木についての音声ガイダンスがあればより楽しんでもらえるのではないか。

このように、デジタルブックに限らず、様々な人がみどりと関わるができるような工夫が必要である。Web アンケートは手軽に実施できるが、一方で、Web にアクセスできない人々もいるという事実を考慮し、何らかの工夫を凝らすことが望ましいと考える。現時点で何か具体的な案はあるか。

事：

大変貴重な御意見であると認識している。現時点では Web アンケートを紹介させていただいたが、これは確定的なものではない。今回の審議会でもいただいた意見を反映し、Web 以外の方法も検討し、幅広く意見を伺えるようにしたいと考えている。引き続き様々な経験も踏まえた御意見をいただきたい。

委：

私は部会のメンバーだが、先ほども発言があったとおり、行政計画の策定をしていてこのような楽しい場はなかなか無く、勉強になることも多い。作り手が楽しいと思って作った計画は、それを受け取る人々にも必ず伝わるはずであるし、その要素を大切にしたい。

特に重要だと思った課題がレーダーチャートである。これを提示すると、どうしても曖昧な評価だと言われることが多く、特に学術的な視点からは主観的に評価していると捉えられやすい。意図を常に明確に示し、最終的にレーダーチャートとして出てくる指標について、どのようなデータを基にし、どのような基準で分析しているのか、その解釈を明確に示さなければ、いかようにも操

作可能になってしまう。この指標の内訳を明示することが、大きな課題である。

また、先ほど指摘のあった施策の方向性の「形成する」（スライド２２）という表現についてだが、ここには保全と継承の意味合いが強く感じられるため、違和感を抱く人も多いと理解している。一方で、個人的な感覚としては「形成する」という表現も悪くないと思う。京都の庭園文化において、維持管理の作業は創造的な庭作りの営みとして捉えられていることが多く、単に伝えるだけでなく、その営み自身が創造的な取組であると思うため、あえて「形成する」との表現も適切だと感じる。受け取られ方を含めて、部会で再度議論を重ねることが重要である。

様々な意見を伺い、概要版が極めて重要であると感じた。デジタルブックには多くの可能性あり、厚み出て内容が豊かになるが、馴染みのない人も当然存在する。広く受け入れられる計画を考える際、概要版には少なくともエッセンスがどんな人にも伝わるような表現が必要である。

事：

指標については、改めて部会などで議論をさせていただく。計画の公表の仕方や概要版について、多様な案を部会でもいただいております、可能な限り工夫して応じていきたい。

委：

素案の全体像を拝見し、楽しく見られたという感想が一番大きい。先ほどの提案のように、市民から写真を集めるなど、楽しく作り上げていく部分について意見を取り入れていただきたい。

事：

写真については、計画に対する市民意見の募集を行う場面があるため、そのタイミングでの募集などを考えていきたい。前向きに検討を進めていく所存である。

委：

部会も参加しているが、非常に市民にとって分かりやすい計画になっていると感じている。最初に魅力的なシーンを提示するのは大変良い。スライド２３で「造園力」という言葉を詳細に分かりやすく説明している部分など、詳しく知らない人でもその言葉を理解できるよう工夫されていると感じる。

モニタリングの部分で、これから質をしっかりと測っていくことについては賛成であるが、アンケート調査だけでなく、ヒアリング調査を通じてエピソードも一緒に引き出すことができれば、幅広く変化を確認できるのではないかと。全体計画の中で詳細なヒアリングがどこまで関連するかは見えづらい部分もある。

るが、計画を発信する際に皆に共感を得てもらいやすくするために、みどりの様々な感じ方を発信するのも良いだろう。

事：

ヒアリング調査も含め、いただいた御意見について検討していきたい。

委：

部会では、まず市民の誰も見たくなるような計画を作ろうということでスタートし、鳥瞰図や平面図をいかに見やすくするかに時間を費やした。

これまでの計画では中に隠れていた「造園」という言葉が前面に出てきて、庭園文化や造園技術を押し出していただけることは本当にありがたい。

指標の基準作りも課題として挙がったが、量から質への方針転換をされたことが一番大きな事といえるだろう。

事：

本市としても庭園文化の重要性を認識しており、いただいた御意見はなるべく反映させていきたい。

委：

デジタルブックにホームページへのリンクを付けることは可能か。例えばデジタルブック内から雨庭や保存樹等、各施設の情報へリンクすることができるの良い。

事：

技術的には、デジタルブック内にホームページへのリンクを設置することも可能かと思う。

委：

外部へリンクすると情報の更新が難しいかもしれないが、デジタルブックから移動できるようにすることで、この本から世界が広がるようにできるとよい。

事：

リンク先のホームページを管理する必要があるが、できることはしていきたい。

委：

今日いただいた貴重な意見や質問に応える形で、更に部会を通じて議論を進めていただきたい。

〔保存樹の追加指定について〕

（質疑応答）

委：

保存樹の追加指定に当たって、6年にもわたる調査を実施された。私も一部分だけ参加させていただいたが、現場で丁寧に調査しなければならないため、関係した方々の御尽力の賜物だと思っている。さらに、選定に当たっては、重要な観点を考慮して、バランスを取りながら柔軟に対応していただき、最終的に14件の指定候補樹木が選定された。本当に良くやっていただいたと感じている。

委：

保存樹の樹種に偏りが見られることについて、今後、再び追加指定が必要となった時に、新たな選定基準を設けるのか。

事：

将来、再度、追加指定の検討が必要になった時に備え、例えば、今回の調査を行った樹木を継続的に確認するようなことをしていきたい。また、選定基準は、次回追加指定を行う際には、歴史性・由来のある木を重視する、保存樹がない地域を優先することなどについて検討する必要があると考えているが、全体的には大きく変える必要はないと考えている。

委：

今回、長い期間をかけて調査を行っているが、もう少しスピード感が必要ではないかと思う。例えば、選定された樹木を毎年度追加指定するなどの方法もあると思う。次回、選定を実施する際は、その点を考慮してほしい。

事：

次回の選定では、選定の頻度を上げるなど、選定から指定までの期間を短縮することを検討していきたい。

委：

景観性の判断基準を詳しく教えていただきたい。また、歴史性やいわれを重視した場合、そこに残っている巨樹が、異様な存在感を放っていて街並みと調和していないようなケースがあると思う。このような場合、景観性をどう評価するのかについて考えをお聞かせいただきたい。

事：

景観性は３段階で評価を行っており、「a」は街並みと調和して美しいという評価である。「b」は調和しているが工夫の余地がある場合、例えばもう少し手入れをすればもっと良くなるというような場合である。「c」は調和していない場合としている。御指摘のとおり、歴史性やいわれがある樹木とその周辺の景観が調和していないというケースもあり得ると思っているが、今回の調査結果ではそのような異様な存在感を放つものは見当たらなかった。

委：

基準は理解した。歴史性やいわれがあるが、違和感があるものをどう評価していくのかというのは大事なことだと思うので、次回の選定の際に、改めて検討していただきたい。

事：

御指摘を踏まえ、次回は、そのような視点にも配慮しながら取り組んでいきたい。

委：

これまで指定解除となったものの理由は何か。枯死したということか。

事：

指定解除したものは、大半は枯死によるものである。

委：

事務局から提案があった１４件を追加指定候補樹木として、次の段階に進めて行ってよろしいか。

（異議なし）

委：

では、事務局は、是非積極的に進めていただきたい。